

日本鉄鋼協会記事

編集委員会

第1回和文誌分科会 開催日: 3月6日. 出席者: 田中主査, ほか16名.

1. 「鉄と鋼」第60年第3号が完成, 発送済み.
2. 「鉄と鋼」第60年第8号に論文7件, 技術報告2件, 委員会報告1件, 特別講演1件の掲載が決定した.
3. 寄稿規程改訂案について事務局案が発表され, 承認がなされた. 次回の運営委員会にかけられることになった.

第1回欧文誌分科会 開催日: 3月12日. 出席者: 橋口隆吉, ほか8名.

1. 9件の論文について審査報告がなされた.
2. 「鉄と鋼」60年3号, 60年7号のアブストラクト, および「鉄と鋼」以外の国内雑誌から計15件の論文につき投稿を勧誘することになった.

原子力製鉄トータルシステム委員会

第8回システムエンジニアリング分科会

開催日: 3月5日. 出席者: 正田主査, ほか19名.

1. 昭和48年度SE分科会報告書の目次について審議した. 商業用システムの典型例として, ①原子炉から見た多目的利用系, ②原子力コンビナート, ③原子力製鉄システムの3つを選び, それぞれの専門家にそのイメージを描いてもらうことにした.

2. 各WGの作業報告がなされた.

(1) 低圧操業では還元ガス循環サーキュレーターの動力が無視できなくなるとの指摘があった.

(2) 原研委員より2次系破断事故による原子炉緊急冷却システムの説明があった.

3. 多目的高温ガス実験炉概念設計について契約仕様書をもとに原研委員から説明があった.

第9回システムエンジニアリング分科会

開催日: 3月25日. 出席者: 正田主査, ほか17名.

1. 昭和48年度SE分科会報告書について審議した.

執筆担当の委員からそれぞれ説明があった後, 加筆修正が行なわれた.

2. 各WG報告書(案)が配布された.

3. 分科会報告書, WG報告書に対する追加コメントを受けた後, 幹事会として最終的にまとめることにした.

共同研究会

製鋼部会

第57回部会 開催日3月7, 8日. 出席者: 石原部会長, ほか118名.

1. 特別講演

日新製鋼呉製鉄所藤田鉄鋼部長により「呉製鉄所転炉工場の操業状況」と題して講演が行なわれた.

2. 研究発表

自由議題では13件が報告され, 重点テーマでは神鋼技術開発部飯浜製鋼担当部長の座長により「脱硫技術について」各社から発表された.

3. 工場見学

日新製鋼呉製鉄所

鋼管部会

第14回継目無鋼管分科会 開催日: 2月25, 26日.

出席者: 小滝主査, ほか, 1日目: 33名. 2日目: 28名.

第1日(熱押関係)

- (1) 熱押素材の製造工程について
アンケートまとめに基づき討議
- (2) 熱間押出しにおける進行管理について
アンケートまとめに基づき討議
- (3) ガラス潤滑共同実験について(第3回)
各社で共通試験した結果のまとめに基づき討議

第2日(マンネスマン関係)

- (1) 切断機および切断作業について
アンケートまとめに基づき討議
- (2) ロット管理方式について
アンケートまとめに基づき討議

その他,

工場操業状況報告が各事業所ごとに行なわれた.

第14回溶接鋼管分科会 開催日: 2月18, 19日. 出席者: 志水主査, ほかのべ110名.

第1日目(電縫・鍛接鋼管関係)

- (1) 検査の設備, 方法および基準について
(電縫管, 鍛接管共通)
- (2) 高周波溶接(設備関連)について
(電縫管のみ)
- (3) 鍛接管スケルブ加熱炉について
(鍛接管のみ)

第2日目(サブ・マージドアーク溶接管関係)

- (1) 鋼管のピーキング, オフセット, 寸法精度と真円度におよぼす諸因子について
- (2) SAWのビード形状と溶接材料について上記のテーマでアンケートし, そのまとめた結果を担当会社より発表の後, 種々熱心な質疑応答, 討議が行なわれた.

鉄鋼分析部会

第35回鋼中非会属介在物分析分科会

開催日: 3月9日. 出席者: 成田主査, ほか11名.

議題

1. 鋼中炭化物抽出定量法に関する共同実験結果報告
 - (1) 自発検討結果の報告
 - (2) 第1回~第5回共同実験結果の報告
 - (3) 今後の進め方
2. 鋼中空化物抽出定量法に関する共同実験

- (1) 窒化物抽出定量法に関する調査結果.
- (2) 窒化物抽出定量法実験要領
- (3) 今後の進め方

計測部会

第56回部会 開催日3月7, 8日. 出席者: 野坂部会長, ほか106名.

1. 幹事報告
 - (1) 「プロコン保守」小委員会の発足
 - (2) カルテルに関する日本電気計測器工業会との交渉経過
 - (3) 部会直属幹事の変更
新日鉄鈴木氏→新日鉄藤井氏へ
 - (4) その他
2. 「プロコン計装工事基準」小委員会中間報告
3. 一般研究
製鉄関係6件, 製鋼関係1件, 圧延関係3件, 製品検査関係6件, 計測技術の改善など2件, 環境管理関係4件, その他1件の計23件が発表された.
4. 工場見学
神鋼加古川製鉄所のペレット工場, 熱延工場

原子力部会

第12回部会 開催日: 3月18日. 出席者: 大竹部会長 ほか20名.

1. 部会の運営について
前池田部会長に代わり, 新しく部会長に就任された大竹委員長より, 委員長会議の結論もふまえ, 原子力部会の今後の方針として, 原子力製鉄技術研究組合のバックアップをすると同時に, 長期的視野にたつた角度の広い活動をめざし, 輝かしい成果をあげたいとの挨拶, 方針などが説明され了解された.
2. 組織, 委員長の交替について
従来の委員長会議に代わり, 部会活動の企画・調整を行なう場として, 企画小委員会の設立. システム小委員会の廃止, 第一小委員の休会. 第4小委員長 森委員長 (東工大) に替り, 一色委員長 (東工大) の就任. 第5小委員会 岡壘委員長 (神鋼) に替り, 笛木委員長の就任.
3. 各小委員会, グループ報告
 - (1) 特許グループ (2) 第2小委 (3) 第3小委 (4) 第4小委 (5) 第5小委 (6) 熱交小委の昭和48年度の活動および今後の活動方針報告および討議
4. 原研多目的高温ガス炉の研究状況について

S. 49年8月末に 基本概念設計
その後10月頃より 概念設計
S. 50年度 チェックアンドレビュー
S. 51年度 安全審査

原研より発電用として米国GGA社のガス炉の導入が考えられているが, 大型(77万kw)であるものの, 達成温度が低いこともあり, 原研多目的高温ガス実験炉(50Mwt, 1100°C)との関係について検討して欲しいとの要望があつた.

標準化委員会

第4回 TC67 分科会 開催日: 2月28日. 出席者: 桑原主査, ほか10名.

1. ISO/TC67/SC/N80F (4Jan'74) “石油および天然ガス産業用 超高降伏点 熱処理ラインパイプ” に対する日本意見の討議・作成
この内容については, 構成上やや組替してあるが, 内容は API5LU・1stEd (May'72) に従っているようである.
討議の結果
 - ① この種の非常に強度の高いラインパイプについては, まだ製造実績が少ないので, 今後実績データに基づき, 引張り強さの最小値および範囲, 引張伸びの最小値を検討すべきである.
 - ② 標準寸法は単純化させるべきであり, とくに, 厚さはラインパイプとして使用実績の多い寸法を標準とすべきである.
 - ③ ミス・プリントの指摘
 などの内容を折り込んだ日本意見を作成し ISOTC67 事務局へ送付することにした.

第3回日ソ油井用鋼管分科会 開催日: 3月8日. 出席者: 桑原主査, ほか8名.

- 日本とソ連との標準に関する協力関係協定に基づき, 3月末に日本側より油井用鋼管に関する日本の規格および参考技術資料をソ連側に送付することになっているので, そのための資料の審議, 検討を行なつた.
送付するのは今回次のような種類のものである.
1. わが国の油井用鋼管規格について
 2. API 規格に対する日本意見
 3. ケーシング, ケービング用ネジゲージの管理について
 4. 油井用鋼管の製造工程について
 5. 各社の油井用鋼管の技術資料
- で, 英文にて, 日本規格協会気仕日ソ標準化懇談会を通じ, ソ連側へ送付することにした.

第13回鋼質判定試験方法分科会 開催日: 2月18日. 出席者: 岩村主査, ほか18名.

1. オーステナイト結晶粒度試験方法
宿題となつていた浸炭法の場合の炭酸バリウム混合率酸化法の場合の酸化時間はアンケート調査結果をもとにして決定した. 試験片の形状・寸法は試験法により差異があり, 一部不具合な点もあるので, 各社に再度アンケート調査する.
追加された切断法についてはフェライトと同様詳細な規定に改めた.
2. フェライト結晶粒度試験方法
第2次案について逐条審議した. 標準写真は ASTM も変更になつているため, 修正することにした.

第8回脱炭層・硬化層深さ測定方法原案作成分科会 開催日: 2月28日. 出席者: 田中主査, ほか17名.

1. 脱炭層深さ測定方法について
最終原案が提出され、若干の訂正だけで了承された。
2. 炎焼入および、高周波焼入硬化層について
最終原案を審議した。おもに字句の訂正だけで承認された。解説についても、十分な検討を行ない、今回決定した訂正点を修正して、改正案とする。
3. 3規格の調整
3規格とも同じような規格であるので、表現がまちまちにならないように調整を行なった。

第5回圧力容器用鋼材規格体系調査分科会

開催日：3月20日。出席者：小倉主査，ほか18名。

これまでの検討をふまえて、幹事会社である川鉄より答申案が提出され、これをもとに検討を進めた。

この結果、高温用材料について、規定項目として取り入れるべき項目（高温引張，クリーブ破断など）について、さらに協議が加えられ、これまでの議事録をも参照して、若干の修正を加えた。

今後幹事のもとで修正を行ない、これを各委員に送附して、さらに問題点の指摘がなされなかつた場合には、これを委員会として承認されたものとみなし、分科会の任務は完了したものとすることとした。

第7回引張・衝撃試験原案作成分科会

開催日：3月18日。出席者：川田主査，ほか15名。

1. 引張試験片について
引張試験片の整理統合について、最終段階の審議を行った。今回だけでは、決定できない事項もあり、最終案とともに、書面で委員に意見をうかがうことになった。
2. 引張試験方法について
引張試験方法についても、今回だけでは決定できない事項もあるので、書面審議することになった。

第3回低温用ニッケル鋼板原案作成分科会

開催日：3月19日。出席者：金沢主査，ほか15名。

- 1) 前回分科会でメーカー側に再調整を求められていた成分規定範囲について幹事会社である新日鉄より、その結果が提出され、協議の結果、すべて了承された。
- 2) 衝撃試験方法および規定値について
すでに規格化されている低温圧力容器用炭素鋼板（アルミキルド鋼，SLA）の規定方法との斉合性をもたせる面から、WE S方式の検討を行なったが、若干困難な面があるので、ASTMと同様な方式を当面採用することとした。
- 3) 今回の討議結果をふまえ、規格原案、審議経過報告を修正し、これを各委員へ送附して略議がなければ、これを委員会で承認したものとし、分科会活動は終了する。

鉄鋼標準試料委員会

第44回委員会 開催日：2月14日。出席者池野委員長ほか18名。

1. 前回議事録を略議なく確認した。
2. 48/Ⅶ および 48/Ⅷ 在京委員会の報告があり、異議なく承認した。

3. 昭和49年度予算の事後承認が行なわれた。
4. 田畑協会専務理事より、当委員会の日頃の活動に対し謝辞がのべられた。
5. 49年1月末現在の在庫量と製造作業予定が報告された。
6. けい光X線分析標準試料賃貸借契約についての契約書、細則および試料ケースの準備ができたとの報告があった。
7. 更新ならびに新規標準試料の紹介があった。
8. 鉄鋼標準試料委員会報告（案）を検討した。
9. 委員会名簿の検討をした。

材料研究委員会

第9回委員会 開催日：3月15日。出席者：長島委員長，ほか14名。

- 1) 研究報告「極低炭素低合金鋼の焼戻脆性」住金中研の大谷氏の米国留学中の研究の一部について、表記の演題で報告をいただいた。
- 2) 経過報告
幹事会により、今後の進め方についての考え方が提出され、協議の結果了承された。
- 3) 共通実験進捗報告
48年度の共通実験について進捗報告がなされた。次回（6月）委員会にて、これらについて最終報告がなされる。
- 4) 来年度計画について
各社より来年度計画が提出され、説明がなされた。本年をもつて現在の研究テーマを終了するので、来年度は補足的なもののみ限定し、年後半はまとめを行なうこととなる。来年度共通試料 6ch. について成分系を決定した。

鉄鋼基礎共同研究会

遅れ破壊部会

第30回部会 開催日：3月12日。出席者：藤田部会長ほか11名。
研究発表

1. 水素の格子中の局在と応力下の集合
 2. イオンマイクロアナライザーによる金属中の水素分析法（可能性）
- 上記2件の研究発表が行なわれ、討議が行なわれた。

固体質量分析部会

固体質量分析法の鉄鋼業への応用シンポジウム

開催日：2月25，26日。

イオンマイクロアナライザー研究会およびイオンビームアナリシス研究会の協賛により神田学士会館において2日間開催された。第1日目はスパーク形固体質量分析法に関する発表、第2日目はイオンマイクロアナライザーに関する発表が行なわれ、最後に総合討論で活発な意見交換がなされた。

新 入 会 員 名

(昭和49年2月1日~2月28日)

正 会 員		新 入 会 員 名		外 国 会 員	
田中 勇	新日本製鉄(株) 基礎研究所	齊藤 昭禎	〃 企画室	ホルヘ・ゴメス・ロセル	キューバ大使館
宮崎 武志	〃 〃	井寄 裕介	日立金属(株) 磁性材料研究所	渡辺 正紀	大阪大学教授
山口 直治	〃 〃	福島 捷昭	〃 安来工場	学 生 会 員	
松村 省吾	〃 光製鉄所	縣 才裕	大阪製鋼(株)	佐々 和治	早稲田大学, 理工学部 大学院, 修士
柳井 隆司	〃 〃	柿木 泰雄	〃 〃 西島製造所	竹内 秀明	〃 大学院, 理工学研究科
東 陽一	〃 堺製鉄所	吉田 晴夫	海外新聞普及(株)	高橋 徹	〃 〃
九島 行正	〃 広畑製鉄所	吉村 和彦	〃 〃	本橋 孝久	〃 〃
三井田 隆	〃 製品技術研究所	阿部喜佐男	(財)総合鋳物センター	蓮沼 純一	大阪大学工学部, 冶金 学科
村田 杏坪	〃 八幡製鉄所	有沢 範貞	東邦重鉛(株) 藤岡製錬所	石井 満男	〃 大学院, 工学研究科
片岡 冬里	〃 大分製鉄所	石川 秀一	日新製鋼(株)本社	高橋 隆雄	北海道大学工学部, 大 学院
内藤 俊太	〃 君津製鉄所	石田 二郎	三菱製鋼(株)	矢野 芳則	北海道大学, 大学院, 工学研究科
有菌 芳昭	(株)神戸製鋼所 加古川製鉄所	小谷 治郎	三菱重工業(株) 名古屋機器製作所	鹿子木公春	九州工業大学, 大学院 金属加工科
長谷 明	〃 〃	大村 茂	日本金属(株) 技術研究所	平田 武行	京都大学, 大学院, 工 学研究科
立野 常男	〃 明石工場	岡田 豊和	(株)不二越	水本 光春	立命館大, 理工, 基礎 工学科
長谷川一司	〃 〃	片山 博之	大和ハウス工業(株) 本社	山田 久幸	千葉工業大学, 大学院
菊池 英雄	〃 高砂工場	金田 昭	鳥取県工業試験場	吉田 憲一	東京大学, 工学部, 金 属
鈴木 清	〃 〃	神谷 久夫	大同製鋼(株) 中央研究所	若狭 邦男	東京工業大学工学部, 大学院, 博士課程
鈴木 啓司	〃 中央研究所	川崎貴久男	富士工機産業(株)	外 国 会 員	
門永 敏樹	〃 長府北工場	児玉 英世	(株)日立製作所 日立研究所	辛 啓鉉	聯合鉄鋼工業(株)生産 管理科
大村 勝	日本鋼管(株) 技術研究所	島村 剛三	日本耐火工業(株) 岡山工場	La Soudure Electrique Autogene, Proceces Arcos S. A. Belgium	
安谷屋武志	〃 福山研究所	関口 力	日本金属工業(株) 研究室	Institut für Werkstoffkunde 1, Universität Karlsruhe	
内田 繁孝	〃 福山製鉄所	田中 康司	(株)豊田中央研究所	W. Germany	
金指 元計	〃 技術研究所	高島 鶴幸	住友化学工業(株) 新居浜製造所	Mr. Ruben Z. Gomez (Iligan In- tegrated Steel Mills, Inc.)	Philippines
小林 基伸	〃 耐火物研究室	谷 一	エヌテーエヌ東洋ペ リング(株)	Prof. Aldo Ramacciotte (Centro Sperimentale Metallurgico S.P. A)	Italy
水野 実	〃 環境管理部	徳永 政	吾孀精機鋼業(株) 千葉工場	Université Catholique de Louvain Belgium	
岩永 寛	住友金属工業(株) 中央技術研究所	中川 学	臨港製鉄(株) 造幣局	Mr. Robert Q. Barr (Climax Mo- lybdenum Company) U.S.A.	
小田 光雄	〃 〃	新田 和夫	姫路工業大学教授	Ecole Nationale Supérieure de la Métallurgie et de l'Induslrrie des Mines de Nancy France	
永田 三郎	〃 〃	橋本 雍彦	神奈川工業試験所 川崎支所	Prof. Y. Krishna Rao (Columbia University) U.S.A.	
山口 洋治	〃 〃	平井 清人	(株)淀川製鋼所 泉大津工場		
奥田 秀雄	〃 鹿島製鉄所	平出 均	川崎重工業(株) 技術研究所		
中野 孝一	〃 和歌山製鉄所	藤岡 順三	日本精工(株) 技術研究所		
大塚 雅彦	日産自動車(株) 第2試作部	古村恭三郎	丸一鋼管(株) 名古屋工場		
馬久地 裕	〃 〃	八重樫征郎	東北三菱自動車部品 (株)		
佐藤 章	〃 座間工場	矢野 宣宏			
池田 輝昭	川崎製鉄(株) 水島製鉄所				
北川 孟	〃 技術研究所				
反町 健一	〃 千葉製鉄所				
井口 伸一	特殊製鋼(株)				
大隅 広	〃				
伊藤 洋一	北海道大学金属工学科 助教授				
米沢 襄	〃 〃 斌技官				
玉応雄一郎	(株)吾孀製鋼所				
中野 志郎	〃 仙台製造所				
小日向久雄	日本ステンレス(株) 直江津製造所				

(昭和49年3月1日～3月31日)

正 会 員

小園 東雄	新日本製鉄(株)	水野 正志	研究開発本部	山内 悟美	三菱製鋼(株)
	八幡製鉄所	青木 純久	〃 〃		長崎製鋼所
永川 隆敏	〃 〃	飯泉 省三	鉄道技術研究所	山方 三郎	オリエンタルエンジニアリング(株)
鴨志田正夫	〃 製品技術研究所		日新製鋼(株)		学 生 会 員
小甲 康二	〃 堺製鉄所	市川 秋雄	周南製鋼所	香川 学	九州工業大学, 大学院
佐野 謙一	川崎製鉄(株)	小博 直明	(株)荏原製作所	田上 俊男	〃 〃
	技術研究所		中央研究所	江崎 寛	秋田大学鉱山学部金属材料学科
波戸村太根生	〃 〃	富田 桂次	(株)吾孺製鋼所	幡野 彰利	京都大学工業研究科,
矢島 稔	〃 〃		仙台製造所		金属加工学専攻, 修士
中沢 利雄	日本鋼管(株)	長谷川隆久	明道金属(株)新潟工場	山田 純夫	東京大学工学部冶金学
	技術研究所	東 正則	(株)神戸製鋼所		科
吉野 宗光	〃 福山製鉄所		中央研究所		
坂田 正光	大同製鋼(株)	藤塚 正和	金属材料技術研究所		